
川端康雄教授 略歴

2023年1月6日記

生年月日 1955(昭和30)年2月27日

学歴

1973年3月 横浜市立東高等学校卒業
1974年4月 明治大学文学部文学科英米文学専攻入学 1979年3月同卒業
1979年4月 明治大学大学院文学研究科英文学専攻博士前期課程入学 1982年3月同修了(文学修士)。
1983年4月 明治大学大学院文学研究科英文学専攻博士後期課程入学 1986年3月単位取得退学

職歴

1982年4月～1986年3月 明治大学文学部実験助手補
1985年4月～1987年3月 東京理科大学理工学部非常勤講師
1986年4月～1990年3月 芝浦工業大学工学部非常勤講師
1986年4月～2002年3月 明治大学文学部非常勤講師
1987年4月～1989年3月 明治大学法学部非常勤講師
1989年4月～1993年3月 十文字学園女子短期大学教養学科専任講師
1992年4月～2002年3月 早稲田大学社会科学部非常勤講師
1993年4月～1997年3月 十文字学園女子短期大学教養学科助教授
1996年1月～1996年3月 伊ナポリ国立東洋大学客員教授
1997年4月～2001年3月 十文字学園女子大学社会情報学部助教授
2000年4月～2002年3月 東京家政大学文学部非常勤講師
2001年4月～2002年3月 十文字学園女子大学社会情報学部教授
2002年4月～2022年3月 日本女子大学文学部教授
2005年4月～2006年3月 青山学院大学文学部非常勤講師
2006年4月～2008年3月 津田塾大学学芸学部非常勤講師
2007年4月～2008年3月 学習院大学文学部非常勤講師
2007年4月～2008年3月 放送大学非常勤講師
2008年4月～2009年3月 ランカスター大学客員研究員
2014年8月 大阪大学文学部非常勤講師(集中講義)

2018年4月～2020年3月 立教大学文学部非常勤講師
2019年4月～2022年3月 上智大学文学部非常勤講師

学内活動

2007年4月～2008年3月 日本女子大学文学部英文学科長
2009年4月～2013年3月 日本女子大学学務部長
2016年4月～2018年3月 日本女子大学大学院文学研究科英文学専攻主任
2018年4月～2022年3月 日本女子大学大学院文学研究科委員長
2018年4月～2020年3月 日本女子大学大学評議員
2020年12月～2022年3月 日本女子大学学長補佐
2021年4月～2022年3月 日本女子大学理事・大学評議員

所属学会

1990年～現在 日本英文学会
1992年～現在 東京ラスキン協会
1994年～現在 The William Morris Society (UK)
2002年4月～2016年3月 地中海学会
2002年～現在 日本ヴィクトリア朝文化研究学会
2005年～現在 レイモンド・ウィリアムズ研究会
2012年～現在 日本ワイルド協会
2014年4月～ 日本比較文学会

公的社会活動

2005年6月～現在 東京ラスキン協会評議員
2014年4月～現在 ラスキン文庫計画推進委員
2013年10月 展覧会「ザ・ビューティフル——英国の唯美主義 1860–1900」
(三菱一号館美術館にて2014年1月30日～5月6日開催) 学術
協力者
2014年4月～2016年3月 日本英文学会編集委員
2015年4月～現在 日本ワイルド協会編集委員
2016年4月～2023年3月 日本ワイルド協会理事
2016年4月～2020年3月 日本ヴィクトリア朝文化研究学会会長
2019年2月～6月 展覧会「ある編集者のユートピア——小野二郎：ウィリア
ム・モリス、晶文社、高山建築学校」(世田谷美術館にて
2019年4月27日～6月23日開催) 学術協力者

2019年4月～2020年3月 日本英文学会関東支部理事

2019年4月～2023年3月 日本ワイルド協会会長

2019年4月～現在 日本英文学会編集委員会顧問



川端康雄教授 研究業績

著書

(単著)

- 1998年12月 『オーウェルのマザー・グース——歌の力、語りの力』平凡社、360頁。
- 2005年9月 『『動物農場』ことば・政治・歌』みすず書房、168頁。
- 2010年5月 『ジョージ・ベストがいた——マンチェスター・ユナイテッドの伝説』平凡社、264頁。
- 2013年1月 『葉蘭をめぐる冒険——イギリス文化・文学論』みすず書房、328頁。
- 2016年12月 『ウィリアム・モリスの遺したもの——デザイン・社会主義・手仕事・文学』岩波書店、328頁。
- 2020年7月 『ジョージ・オーウェル——「人間らしさ」への讃歌』岩波書店、288頁。
- 2021年4月 『増補 オーウェルのマザー・グース——歌の力、語りの力』岩波書店(岩波現代文庫)、494頁。
- 2022年4月 『オーウェル『一九八四年』——ディストピアを生き抜くために』慶應義塾大学出版会、246頁。

(共著・分担執筆)

- 2000年3月 「建築と人間」、荒川裕子編『ジョン・ラスキン：思索するまなざし——御木本隆三旧蔵書を中心に』ラスキン文庫、78-89頁。
- 2000年8月 「クリスティーナ・ロセッティ」沓掛良彦編『詩女神(ミューズ)の娘たち——女性詩人、十七の肖像』未知谷、169-186頁。
- 2003年5月 「ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」久守和子、中川僚子編『〈インテリア〉で読むイギリス小説——室内空間の変容』ミネルヴァ書房、69-88頁。
- 2004年5月 「ビグリン・ブランドは空を飛ぶか」三神和子、川端康雄編『絵本が語りかけるもの——ピーターラビットは時空を超えて』松柏社、105-127頁。
- 2004年7月 「ジョン・ラスキンとセント・ジョージのギルド」藤田治彦監修『ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ』梧桐書院、92-96頁。
- 2004年9月 「大槻憲二とモリス誕生百年祭」宮沢賢治と羅須地人協会「デザ
-

-
- イン史フォーラム編(藤田治彦責任編集)『アーツ・アンド・クラフツと日本』思文閣出版、17-34、177-218頁。
- 2005年12月 「ウィリアム・モリスとエコロジー運動」佐藤清隆、中島俊克、安川隆司編『西洋史の新地平』刀水書房、121-137頁。
- 2006年3月 「ベデカーなしでサンタ・クローチェへ〜ラスキン・フォースター・フィレンツェ」出渕敬子編『読書する女性たち——イギリス文学・文化論集』彩流社、135-154頁。
- 2007年2月 「第1章:『ウィガン波止場』から見たイギリス——『階級』という厄介なもの」「第2章:社会をつくりなおす——『再建』の社会主義」(泉順子と共著)、コラム「「インクリングズ」の集い」「プリンプ大佐」というキャラ」。武藤浩史、川端康雄、遠藤不比人、大田信良、木下誠編『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950年』慶應義塾大学出版会、23-36、38-51、138-139、302-303頁。
- 2007年6月 「ジョン・ラスキンの美術評論と社会思想——反映の裏面から」「新しき村と羅須地人協会——武者小路実篤と宮沢賢治」藤田治彦編『芸術と福祉——アーティストとしての人間』大阪大学出版会、18-37、218-240頁。
- 2008年9月 「ジョン・ラスキンとセント・ジョージのギルド」デザイン史フォーラム編(藤田治彦責任編集)『近代工芸運動とデザイン史』思文閣出版、21-32頁。
- 2011年9月 「序章1: 1951年——イギリス祭の「国民」表象」「第5章: テレンス・コンランの食と住のデザイン」(福西由実子と共著)、「第7章: かくも長き異境の暮らし」、「終章: 2000年代へ——新ミレニアムの門口で」、コラム「column サッカー場の変貌」、「column プレア、ブラウン、キャメロン——首相群像(3)」、川端康雄、大貫隆史、河野真太郎、佐藤元状、秦邦生編『愛と戦いのイギリス文化史 1951-2010年』慶應義塾大学出版会、480頁。1-18、137-151、168、382、383-402頁、その他、編者代表として本造りの全体を統括。
- 2011年10月 「世直しの夢と挫折——ジョン・ラスキンとウィリアム・モリス」向井秀忠、近藤存志編『ウィクトリア朝の〈文芸〉と社会改良』音羽書房鶴見書店、203-223頁。
- 2012年6月 『もっと知りたい バーン=ジョーンズ』東京美術、共著者: 加藤明子、360頁。
- 2013年8月 「芸、芸術」大貫隆史、河野真太郎、川端康雄編『文化と社会を読
-

- む 批評キーワード辞典』研究社、294–302 頁。
- 2014 年 1 月 「この硬い、宝石のような炎で——モリス・ペイター・ワイルド」『ザ・ビューティフル——英国の唯美主義 1860–1900』(朝日新聞社) 195–199 頁。
- 2014 年 2 月 『ウォーターハウス 夢幻絵画館』東京美術、監修、共著、共著者：加藤明子、160 頁。
- 2014 年 11 月 「〈大きなこぶ〉のなかで——ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」山口恵里子編『ロンドン——アートとテクノロジー』(叢書：西洋近代の都市と芸術 8) 竹林舎、286–311 頁。
- 2016 年 12 月 「『現代バビロンの乙女御供』——ウィリアム・T・ステッドの少女売春撲滅キャンペーン」『セクシュアリティとヴィクトリア朝文化』田中孝信、要田圭治、原田範行編、彩流社、223–260 頁。
- 2019 年 4 月 「モリス主義者の遺したものは——小野二郎の仕事(と未完のプロジェクト)」『ある編集者のユートピア——小野二郎：ウィリアム・モリス、晶文社、高山建築学校』(世田谷美術館)、8–23 頁。
- 2021 年 5 月 「日本における『一九八四年』の初期受容」「コラム：「ニュースピーク」と「ベイシック英語」、秦邦生編『ジョージ・オーウェル『一九八四年』を読む——ディストピアからポスト・トゥルースまで』水声社、92, 163–189 頁。

学術論文(断りのない限り単著)

- 1983 年 2 月 「『カタロニア讃歌』ノート」『明治大学大学院紀要 文学篇』20: 207–220.
- 1984 年 4 月 「芸術運動論序説——ウィリアム・モリス『ユートピアだより』論」『ポイエーシス』(ポイエーシス同人会) 6: 4–3.
- 1985 年 12 月 「ジョージ・オーウェルのマザー・グース——『一九八四年』のために」『ポイエーシス』(ポイエーシス同人会) 7: 15–47.
- 1990 年 11 月 「タピストリの詩人」『英語青年』(研究社) 136 (8) : 378–380.
- 1991 年 8 月 「世界のはての泉について——ウィリアム・モリスのロマンスと社会主義」『現代思想』(青土社) 19 (8) : 180–189.
- 1993 年 9 月 「アルカディアの声——ウェルギリウス『牧歌』第七歌での中間態的語法について」『十文字学園女子短期大学研究紀要』24: 1–29.
- 1997 年 3 月 「『ゴシックの本質』とレッサー・アーツの思想」『ラスキン文庫たより』32: 5–8.
- 1997 年 6 月 ウィリアム・モリスとプリンティング』『版画藝術』(阿部出版)

- 96: 122-129.
- 1998年3月 「ディードーの愛し方——アモルに捕らえられた女の伝説とその文学的変容について」『社会情報論叢』（十文字学園女子大学）1: 121-144.
- 1998年12月 「ウィリアム・モリスと書物芸術」『社会情報論叢』（十文字学園女子大学）2: 79-104.
- 1999年12月 「プリンプ大佐の頭の固さ——オーウェルの著作に見られる“Blimp”の使用法について」『社会情報論叢』（十文字学園女子大学社会情報学部）3: 17-44.
- 2001年3月 「ラスキンのフィレンツェ案内」『ラスキン文庫たより』40: 5-7.
- 2001年12月 「バーン＝ジョーンズ、ラスキンとイタリアへ」『社会情報論叢』（十文字学園女子大学）共著（共著者：磯谷麗子）5: 129-196.
- 2002年3月 「ラスキン・イタリア・バーン＝ジョーンズ」『ラスキン文庫たより』42: 9-13.
- 2002年12月 “No True Words Here: An Essay on Fantasy Literature”『社会情報論叢』（十文字学園女子大学）6: 73-101.
- 2003年11月 「ウォーとオーウェル」『英語青年』149（8）: 20-22.
- 2003年12月 “Kenji Miyazawa and His Idea of Nomin-Geijutsu (Peasant Art)”『社会情報論叢』（十文字学園女子大学）7: 187-195.
- 2004年5月 「E. M. フォスター『機械が止まる』」『英語青年』150（2）: 72-73.
- 2004年12月 「ウィリアム・モリス研究者としての大槻憲二——モリス誕生百年祭を中心に」『社会情報論叢』（十文字学園女子大学）8: 1-25.
- 2006年3月 「葉蘭をめぐる冒険——George Orwell, *Keep the Aspidistra Flying* についての一考察」『英米文学研究』（日本女子大学文学部英文学科）41: 135-154.
- 2006年3月 「ウィリアムズ自身の黄金の都市」『英語青年』151（12）: 710-713.
- 2006年7月 “Kenji Ohtsuki and the Tokyo Centenary of the Birth of William Morris.” *The Journal of William Morris Studies* xvi（4）: 5-26.
- 2008年11月 「冷戦下の『動物農場』」『熱風』（スタジオジブリ）6（11）: 15-30.
- 2009年3月 「ボーダーのライター」（「レイモンド・ウィリアムズとの出会い」第5回）『英語青年』154（12）: 726-733.
- 2011年9月 “A Narrative of Unsolved Cases: A Reading of *The Fight for Manod.*”

Key Words: A Journal of Cultural Materialism 9: 134–143.

- 2012年2月 「21世紀の生のためのキーワード——新しい批評の言葉 第23回 芸／芸術」『Web 英語青年』157(11): 22–33.
- 2012年3月 「ケルムスコット・ハウスのオスカー・ワイルド——世紀末・社会主義・ロマンス」『英米文学研究』（日本女子大学）47: 129–143.
- 2012年9月 「装飾芸術としての絵入り本——アンドルー・ラングとH・J・フォード」『熱風』（スタジオジブリ）10(9): 18–32.
- 2013年1月 「リヴァイアサンに抗って——オーウェル、ウィリアムズ、*Politics and Letters* (1947–48)」『関東英文学研究』（日本英文学会関東支部）V: 1–9.
- 2013年3月 「御木本隆三とラスキン文庫の日々」『科研基盤研究(A)平成23–26年度 課題番号23242014「アーツ・アンド・クラフツと民藝——ウィリアム・モリスと柳宗悦を中心とした比較研究」調査研究中間報告書(平成23–24年度)研究代表者: 藤田治彦(大阪大学大学院文学研究科教授)』31–55.
- 2013年12月 「ケルムスコット・ハウスのワイルド」『オスカー・ワイルド研究』13: 15–23.
- 2014年3月 「Orwell, *Inside the Whale* (1940) 覚書」『英米文学研究』49(日本女子大学)49: 159–172.
- 2014年3月 「真理は生の道——ラテン語銘文 VERITAS VIA VITAE の文意についての一考察」『日本女子大学紀要 文学部』63: 49–58.
- 2014年8月 「「大衆などというものは存在しない」——レイモンド・ウィリアムズと産業小説」『ギャスケル論集』24: 1–12.
- 2014年12月 「奇妙な二人組——モリス、ボックスの協働作業」モリス、ボックス著『社会主義』（晶文社）306–336頁。
- 2015年3月 「モリスと柳、日々の暮らし——レッド・ハウス時代と我孫子時代」『科研基盤研究(A)平成23–26年度 課題番号23242014「アーツ・アンド・クラフツと民藝——ウィリアム・モリスと柳宗悦を中心とした比較研究」調査研究最終報告書(平成23–24年度)研究代表者: 藤田治彦(大阪大学大学院文学研究科教授)』11–24.
- 2016年11月 「『希望の巡礼』のリズム——ウィリアム・モリスの1880年代」『ヴィクトリア朝文化研究』14: 3–32.
- 2016年11月 「ワイルド、モリス、ロマンスの精神」『オスカー・ワイルド研究』15: 39–54.
- 2017年3月 「ポール・モレルの「レッサー・アーツ」——ウィリアム・モリス

- から D・H・ロレンスへ』『D. H. ロレンス研究』27: 2-18.
- 2020年3月 「「ファリンドン通りのアリストパネス」——ウィリアム・モリスの社会主義演劇『テーブルは覆る、ナプキンは目覚める』覚書』『英米文学研究』（日本女子大学文学部英文学科）55: 139-158.
- 2021年3月 「「志業」の一系譜——柳宗悦、壽岳文章、小野二郎』『紫明』46: 62-69.
- 2021年11月 「唯美主義運動の「大義」——ウォルター・ハミルトン著『英国の唯美主義運動』（1882年）をめぐって』『ヴィクトリア朝文化研究』19: 5-19.
- 2021年12月 「『生活の藝術化』から『英国近世唯美主義の研究』へ——本間久雄のウィリアム・モリス研究を中心に』『オスカー・ワイルド研究』20: 35-54.

口頭発表

- 1999年10月31日 「児童文学としての *Animal Farm*」日本イギリス児童文学会研究シンポジウム「「子ども」を通して見えてくるもの——カルチュラル・スタディーズとしての英語圏児童文学／文化研究の方法論」（於金沢学院大学）講師：川端康雄／藤森かよ子／吉田純子
- 2002年6月23日 「ロマンス作家のローマン体——ウィリアム・モリスとイタリア」地中海学会第26回大会 シンポジウム「地中海とアルプスの北」（於学習院大学）、司会：高橋裕子、講師：秋山聰／川端康雄／吉川文
- 2003年3月8日 「ピグリン・ブランドは空を飛ぶか」日本女子大学文学部学術交流研究会「ピーターラビットは時空を超えて——近代絵本の諸相」（於日本女子大学目白キャンパス）、司会：新見肇子／ソートン不破直子、講師：山路千佳／佐藤和哉／石井光恵／斉藤美加／川端康雄／百々佑利子／坂井妙子／三神和子／吉田新一
- 2003年7月26日 「宮沢賢治と農民芸術」第3回アーツ・アンド・クラフツ・セツルメント国際会議 横浜・大阪2003「近代日本の芸術と社会」（於関東学院大学金沢八景キャンパス）、司会：藤田治彦、講師：鈴木禎宏／川端康雄／水沢勉／三村京子／塚田耕一
- 2004年10月30日 「ロマンティック・エコロジストとしてのウィリアム・モリ

-
- ス]「芸術と大地の美——ウィリアム・モリスと〈保全〉の思想」財団法人ラスキン文庫創立 20 周年記念研究シンポジウム (於日本女子大学目白キャンパス)、司会、基調講演: 川端康雄、講師: 横山千晶/藤田治彦/菅靖子。
- 2005 年 7 月 8 日 “Kenji Otsuki and the Tokyo Centenary of the Birth of William Morris.” “Morris in the 21st Century: The 50th-Anniversary Conference of the William Morris Society” (Royal Holloway, University of London), Chaired by Rosie Miles.
- 2005 年 12 月 5 日 “Kenji Miyazawa and his Idea of Nomin-Geijutsu (Peasant Art).” “Intercultural Imaginaries of the Ideal: East-West Comparative Utopias” (The University of Melbourne), Chaired by Jacqueline Dutton.
- 2005 年 12 月 7 日 “Orwellian Mother Goose: Dystopian Use of the ‘little chunks of history’ in Nineteen. Eighty-Four.” “Imagining the Future: Utopia, Dystopia and Science Fiction” (Centre for Comparative Literature and Cultural Studies, Monash University, Clayton Campus, Melbourne), A panel with Andrew Milner and Millicent Vladiv-Glover.
- 2006 年 5 月 20 日 「*Inside the Whale* (1940) と民衆文化のイコノロジー」「大戦間」の文化研究のために——共同体、ファシズム、精神分析」日本英文学会第 78 回全国大会シンポジウム (於中京大学)、司会・講師: 遠藤不比人、講師: 川端康雄/中山徹/河野真太郎
- 2006 年 9 月 10 日 「オーウェル『葉蘭をそよがせよ』(*Keep the Aspidistra Flying*, 1936) を読む」「越境する歴史学」研究会第 15 回例会 (於日本女子大学目白キャンパス)、司会: 小関隆
- 2007 年 3 月 17 日 「ラスキン、モリスとエコロジー」第 3 回「環境と文学」フォーラム (於大阪大学豊中キャンパス)、司会: 玉井暲
- 2008 年 9 月 27 日 “A Quest for Another Pearl of Great Price: Ryuzo Mikimoto and the Tokyo Ruskin Society.” 国際シンポジウム “Ruskin, Venice, and 19th Century Cultural Travel.” The Ruskin Centre at Lancaster University, INCS (Interdisciplinary Nineteenth Century Studies), and The Department of European and Postcolonial Studies of University of Ca’ Foscari, Venice 共催 (於 Venice International University)、共同発表者: 秋山康男
-

-
- 2010年12月4日 「ジョン・ラスキンとウィリアム・モリス——社会改良の夢と挫折」フェリス女学院創立140周年記念英文学科シンポジウム「1870——ヴィクトリア朝文芸と社会改良」（於フェリス女学院大学山手キャンパス）、講師：向井秀忠／丹治愛／富樫剛／川端康雄／菅靖子／山本政幸／由井哲哉／能澤慧子／近藤存志
- 2011年12月10日 「ケルムスコット・ハウスのワイルド——緒言」日本ワイルド協会第36回大会シンポジウム「ワイルドと世紀末ロンドンの諸相」（於東京女子大学）、司会・講師：川端康雄、講師：田中裕介／桐山恵子／庄子ひとみ
- 2011年12月17日 「見市雅俊編『近代イギリスを読む』（法政大学出版局）をめぐって」歴史と人間研究会第200回研究会（於一橋大学国立キャンパス）
- 2012年9月23日 “Ginza and the Tokyo Ruskin Society.” 科研基盤研究（A）「アーツ・アンド・クラフツと民藝」2012（平成24）年度研究会（国際シンポジウム）「都市のアーツ・アンド・クラフツ The Arts & Crafts of the City」（大阪大学豊中キャンパス）、司会：藤田治彦、講師：Francesco Scolozzi／Shengxi Fan／Raffaele Milani／Anna Lambertini／Laura Ricca／Lisha Ren／Barbara Cimatti／森田雅子／川島智生／猪谷聡／川端康雄
- 2013年6月1日 「「大衆などというものは存在しない」——レイモンド・ウィリアムズと産業小説」日本ギャスケル協会第25回例会（於早稲田大学教育学部早稲田キャンパス）、司会：鈴木美津子
- 2013年8月9日 「山田雄三著『ニューレフトと呼ばれたモダニストたち』を読む」レイモンド・ウィリアムズ研究会ワークショップ「モダニズムはいつだったのか」（於関西学院大学大阪梅田キャンパス）、討議参加者：山田雄三／遠藤不比人／大貫隆史／加瀬佳代子／川端康雄／鈴木英明／中井亜佐子
- 2014年1月25日 “Ruskin, Morris and Japan in the 1930s.” 筑波大学人文社会系プロジェクト「ヨーロッパ文化における感性の諸表象の総合的研究」ワークショップ“Pre-Raphaelitism, Aestheticism and Japan”（於筑波大学東京キャンパス文京校舎）、司会：山口恵里子、講師：Alison Smith／Tim Barringer／Jason Rosenfeld／小野文子／大石和欣／川端康雄
-

-
- 2014年2月14日 「ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」 科研基盤研究(B)「ヴィクトリア朝幻想の形成と解体」研究会(研究代表者: 井野瀬久美恵)(於甲南大学)、司会: 井野瀬久美恵
- 2014年2月24日 「ラスキン、モリスの「自由」」レイモンド・ウィリアムズ研究会 2013年度第5回研究会(於一橋大学千代田キャンパス)
- 2014年3月16日 “Ruskin, Morris and Laissez-Faire.” レイモンド・ウィリアムズ研究会・日本女子大学文学部学術交流企画共催国際シンポジウム “Culture as a Whole Complex: (Re) Action to Industrialism and Laissez-Faire Thought” (於日本女子大学目白キャンパス)、司会: 大貫隆史/遠藤不比人、講師: 川端康雄/河野真太郎/Andrew Webb/Chris Williams、コメンテーター: 阿部潔/秦邦生/西亮太/山田雄三/近藤康裕
- 2014年5月24日 「チェスタトンの愛国心」日本英文学会第86回大会シンポジウム「戦争と文学の軌跡——ナポレオン戦争から第一次世界大戦まで」(於北海道大学札幌キャンパス)、司会・講師: 玉井史絵、講師: David Chandler/川端康雄/荒木映子
- 2014年12月20日 「モリスと柳 日々の暮らし」科研基盤研究(B)「アーツ・アンド・クラフツと民藝」2014(平成26)年度研究会シンポジウム「ウィリアム・モリスと柳宗悦」(於大阪大学豊中キャンパス)、司会: 藤田治彦、講師: 川端康雄/川島智生/横山千晶/藪亨
- 2015年1月25日 「モリス、ボックスの『社会主義』をめぐる」および鼎談、仙台・羅須地人協会東京支部講演会「蘇るW・モリス、宮沢賢治そして共同体社会主義へ」(於連合会館)、講師: 大内秀明/川端康雄/佐藤優
- 2015年3月28日 “Orwell, Raymond Williams and ‘Double Vision’: A Reading of *Loyalities*.” “The Country and the City: Rural and Urban Wales” (The Twenty-Seventh Annual Conference of the Association for Welsh Writing in English, Gregynog Hall)、司会: Daniel Williams、講師: 川端康雄/河野真太郎/Ugo Rivetti
- 2015年4月18日 “‘Tsūzoku Bunka’: Hayao Miyazaki’s Egalitarian Cultural Praxis in ‘The Gift of Illustrations’ (2012–13).” “Spirited Discussions: Exploring 30 Years of Studio Ghibli conference” (Cardiff University)
-

-
- 2015年8月28日 「囲われた庭と旅の記憶——『プラエテリタ』のスタイル」テクスト研究学会第15回大会シンポジウム「ジョン・ラスキンのスタイル」（於関西外国語大学中宮キャンパス）、司会：川端康雄、講師：虹林 慶／真屋和子／花角聡美／川端康雄
- 2015年12月5日 「モリス、ワイルド、ロマンスの精神」日本ワイルド協会第40回大会（慶應義塾大学日吉キャンパス）シンポジウム「1890年代再考」、司会：原田範行、講師：河内恵子／川端康雄／松本朗／原田範行
- 2016年6月11日 「ポール・モレルの「レッサー・アーツ」——ウィリアム・モリスからD・H・ロレンスへ」日本ロレンス協会第35回大会（松山大学樋笠キャンパス）シンポジウム「マモン神に抗って——モリス、ロレンス、オーウェル」、司会：木下誠、講師：木下誠／川端康雄／福西由実子
- 2016年11月26日 「ヴィクトリアニズムとモダニズム——分断と継承 序言」日本ヴィクトリア朝文化研究学会第16回全国大会（筑波大学東京キャンパス文京校舎）シンポジウム「ヴィクトリアニズムとモダニズム」、司会：川端康雄、講師：木下誠／荒川裕子／山崎亮
- 2016年12月11日 「『社会主義者のための歌』——モリスのコミットメントと運動歌をめぐって」第一回ウィリアム・モリス研究会（意匠学会2016年度デザイン史分科会）（大阪大学豊中キャンパス）、司会：藤田治彦
- 2017年9月2日 “‘Deadly the Harvest of Two Atom Bombs’: An Anti-A-Bomb Song Travelling from Japan to Britain.” “Selective Tradition in the Pacific A Conference on Class, Writing, and Culture.” Victoria University of Wellington, New Zealand（廣瀬絵美日本女子大学学術研究員との共同発表）
- 2017年12月16日 「『擬い物』に抗って——ウィリアム・モリス晩年の講演“Makeshift”（1894）についての一考察」第2回ウィリアム・モリス研究会（意匠学会2017年度デザイン史分科会）（同志社女子大学今出川キャンパス）、司会：高安啓介
- 2018年5月21日 「文化と小芸術」特別シンポジウム「『文化』を考える——日本英文学会における文化研究の可能性」日本英文学会第90回大会（東京女子大学）、司会・講師：原田範行、講師：巽孝之／川端康雄／永井敦子／黒崎政男
-

-
- 2018年12月15日 「「芸術とその作り手たち」——全国芸術・産業応用芸術振興協会第一回大会(1888年)でのモリスの報告をめぐって」第3回ウィリアム・モリス研究会(意匠学会デザイン史分科会)、司会: 横山千晶
- 2019年5月25日 「詩・小芸術・コミットメント——モリスの後期韻文作品をめぐって」、シンポジウム「詩人ウィリアム・モリスを読み直す」日本英文学会第91回大会(安田女子大学)、司会・講師: 川端康雄、講師: 虹林慶/関良子/横山千晶
- 2019年10月9日 “John Ruskin and Kenji Miyazawa: An Idea of Nomin Geijutsu (Peasant Art) and Its European Legacy.” Convegno internazionale Università Ca’ Foscari Venezia «Una grande comunità»: l’Europa di John Ruskin
- 2019年11月2日 「清らかな空気、水、大地」と「悪疫の雲」——人新世の黙示録」ラスキン生誕200年記念シンポジウム「ジョン・ラスキンと気候変動」ラスキン文庫、日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画(日本女子大学目白キャンパス)、司会・講師: 川端康雄、講師: 花角聡美/横山千晶/伊藤邦武
- 2019年12月21日 「モリス『テーブルは覆る、ナプキンは目覚める』をめぐって」第4回ウィリアム・モリス研究会(意匠学会デザイン史分科会)(慶應義塾大学日吉キャンパス)
- 2020年11月18日 「唯美主義運動の「大義」——ウォルター・ハミルトン著『英国の唯美主義運動』(1882年)をめぐって」、シンポジウム「芸術のための芸術/世界のための芸術——開かれた唯美主義の形態」日本ヴィクトリア朝文化研究学会第20回大会(オンライン開催)、司会・講師: 加藤千晶、講師: 川端康雄/横山千晶/近藤存志
- 2020年12月12日 「『生活の藝術化』から『英国近世唯美主義の研究』へ——本間久雄のウィリアム・モリス研究を中心に」、シンポジウム「ワイルド研究者としての本間久雄」日本ワイルド協会第45回大会(リモート開催)、司会・講師: 川端康雄、講師: 庄子ひとみ/平田耀子
- 2021年9月18日 「オスカー・ワイルドとアーツ・アンド・クラフツ運動」19世紀イギリス文学合同研究会準備大会(リモート開催)、シンポジウム「現代を生きる19世紀イギリスの作家たち」司会・講師: 川端康雄、講師: 大野龍浩/新井潤美/金谷益道
-

- 2022年12月3日 「ジョージ・オーウェル『カタロニア讃歌』の語り」日本英文学会東北支部第77回大会(岩手大学上田キャンパス)、シンポジウム「ルポルタージュ・フィクション・戦争——1930-40年代の英語圏文学」、司会・講師:川端康雄、講師:松本朗／三枝和彦
- 2023年3月11日 「『動物農場』のBBCラジオ脚色版をめぐる」日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画「暗闇のなかの希望——ジョージ・オーウェル生誕120周年記念イベント」(日本女子大学目白キャンパス)(予定)

翻訳

- 1982年1月 デイヴィッド・グロス著「文化と否定性——カーニヴァルの理論へのノート」『伝統と現代』74: 43-52.
- 1982年1月 バーバラ・ビー著「識字の教育学」『生活の時間・空間 学校の時間・空間』(叢書「産育の教育の社会史」第3巻、新評論) 219-244頁。
- 1984年11月 マロリ・フロム著『宮沢賢治の理想』晶文社、406頁
- 1986年5月 テリー・イーグルトン著「資本主義・モダニズム・ポストモダニズム」『新日本文学』共訳(共訳者:志田均) 463: 50-70.
- 1987年7月 ケネス・ストロング著『田中正造——嵐に立ち向かう雄牛』晶文社、共訳(共訳者:佐野正信) 448頁。
- 1990年5月 フィリップ・ヘンダースン著『ウィリアム・モリス伝』晶文社、共訳(共訳者:志田均、永江敦) 657頁。
- 1992年11月 ウィリアム・モリス著、ウィリアム・ピーターソン編『理想の書物』晶文社、348頁(2006年2月、ちくま学芸文庫に収録)。
- 1995年4月 モーリス・ヴァレンシー著『恋愛礼讃——中世・ルネサンスにおける愛の形』法政大学出版局、共訳(共訳者:沓掛良彦) 488頁。
- 1995年5月 ジョージ・オーウェル著『象を撃つ——オーウェル評論集1』平凡社、編・共訳(共訳者:井上摩耶子／小野寺健／河合秀和／河野徹／鈴木健三／鈴木寧／鶴見俊輔) 328頁。
- 1995年6月 ジョージ・オーウェル著『水晶の精神——オーウェル評論集2』平凡社、編・共訳(共訳者:岡崎康一／小野協一／小野寺健／工藤昭雄／鈴木健三、鈴木寧) 328頁。
- 1995年7月 ジョージ・オーウェル著『鯨の腹のなかで——オーウェル評論集3』平凡社、編・共訳(共訳者:小野寺健／河野徹／鶴見俊輔／

- 横山貞子) 328 頁。
- 1997 年 2 月 サーラ・スレーリ著「イングリッシュ・インディアのレトリック」『現代思想』25 (2) : 8-31.
- 1997 年 5 月 ビル・ウォーターズ、マーティン・ハリスン著『バーン=ジョーンズの芸術』晶文社、358 頁。
- 2000 年 1 月 ウィリアム・モリス『世界のはての泉』全 2 巻、晶文社、共訳 (共訳者: 兼松誠一) 上巻 460 頁、下巻 363 頁。
- 2000 年 9 月 サーラ・スレーリ著『修辞の政治学——植民地インドの表象をめぐって』平凡社、共訳 (共訳者: 吉村玲子) 410 頁。
- 2003 年 6 月 ウィリアム・モリス著『ユートピアだより』晶文社、382 頁 (2013 年 8 月、岩波文庫に収録)。
- 2009 年 3 月 トニー・ピンクニー「モリスのユートピアを「日本化」する」、『英語青年』154 (12) : 682-686.
- 2009 年 3 月 トニー・ピンクニー「「火」・モダニティ・エコトピア『ユートピアだより』の「失望」をめぐって」『ラスキン文庫たより』56: 6-13.
- 2009 年 3 月 キース・ハンリー「ラスキンのエコロジカルなまなざし——自然、芸術、リアリズムの倫理」『ラスキン文庫たより』56: 14-16.
- 2009 年 7 月 ジョージ・オーウェル著『動物農場——おとぎばなし』岩波書店 (岩波文庫)、256 頁。
- 2009 年 9 月 キース・ハンリー「ラスキンのエコロジカルなまなざし——自然、芸術、リアリズムの倫理」(続)『ラスキン文庫たより』57: 10-15.
- 2011 年 10 月 ジョン・ラスキン著『ゴシックの本質』みすず書房、216 頁。
- 2013 年 6 月 ジリアン・ネイラー著『アーツ・アンド・クラフツ運動』みすず書房、共訳 (共訳者: 菅靖子) 352 頁。
- 2013 年 12 月 レイモンド・ウィリアムズ著『共通文化にむけて——文化研究 I』みすず書房、編・共訳 (共訳者: 大貫隆史/河野真太郎/近藤康裕/田中裕介) 360 頁。
- 2014 年 12 月 ウィリアム・モリス、E. B. バックス著『社会主義——その成長と帰結』晶文社、監修: 大内秀明、監訳: 川端康雄、360 頁。
- 2016 年 3 月 レイモンド・ウィリアムズ著『想像力の時制——文化研究 II』みすず書房、編・共訳 (共訳者: 遠藤不比人/大貫隆史/河野真太郎/田中裕介/鈴木英明/山田雄三) 400 頁。
- 2017 年 12 月 ウィリアム・モリス「冬」およびエミリー・ディキンソン「鉛の

- 篩にかけられて」の訳詩『婦人画報』2018年2月号。
- 2019年4月 ウィリアム・モリス「ケルムスコット・プレス設立趣意書」『ある編集者のユートピア——小野二郎：ウィリアム・モリス、晶文社、高山建築学校』世田谷美術館、43—45頁。
- 2020年3月 「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』試訳と注解(1)」『日本女子大学文学部紀要』共訳(共訳者：井上亜紗／海老名恵／押田昶子／花角聡美) 69: 19—40。
- 2020年7月 『暗い世界——ウェールズ短編集』堀之内出版、河野真太郎編、共訳(共訳社：山田雄三／中井重佐子／西亮太／河野真太郎)。リース・デイヴィス著「暗い世界」の翻訳と解題を担当。15—37頁。
- 2021年3月 「ジョージ・オーウェル「イギリス料理」(1946年)試訳と注解」『日本女子大学大学院文学研究科紀要』共訳(共訳者：熊谷由里子) 27: 1—24。
- 2021年3月 「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』試訳と注解(2)」『日本女子大学文学部紀要』共訳(共訳者：井上亜紗／海老名恵／押田昶子／花角聡美) 70: 49—63。
- 2022年3月 「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』試訳と注解(3)」『日本女子大学文学部紀要』共訳(共訳者：井上亜紗／海老名恵／押田昶子／花角聡美) 71: 69—93。
- 2022年11月 ウィリアム・モリス著『小さな芸術——社会芸術論集I』月曜社、392頁。
- 2022年11月 レベッカ・ソルニット著『オーウェルの薔薇』岩波書店、共訳(共訳者：ハーン小路恭子) 400頁。
- 2022年3月 「ジョージ・オーウェルの劇評(1941—42年)——試訳と注解」『日本女子大学文学研究科紀要』共訳(共訳者：熊谷由里子) 29: 1—43。
- 評論・エッセイ**
- 1984年3月 「オーウェル像の転換のために——『カタロニア讃歌』ノート」『新日本文学』39(3): 14—29。
- 1984年7月 「民衆芸術学校の思想——ラスキン・モリス・賢治」『新日本文学』39(7): 21—35。
- 1984年9月 「相互主体的想像力の運動を——民衆芸術運動の今日的必要性」(新日本文学会第27回大会への問題提起(特集)) 共著、『新日本文学』39(9): 63—75。
- 1984年9月 「なぜ書くかな? (文学の鉞脈)」共著(共著者：山崎岩男／津留由

- 人)『新日本文学』39(9):92-97.
- 1984年10月 「「韓国ブーム」と民衆の文化(文学の鉅脈)」共著(共著者:山崎岩男/津留由人)『新日本文学』39(10):86-91.
- 1985年1月 「労働者文学の方向ということ(文学の鉅脈)」共著(共著者:山崎岩男/津留由人)『新日本文学』40(1):84-88.
- 1985年2月 「運動のパンフレットをめぐる(文学の鉅脈)」共著(共著者:山崎岩男/津留由人)『新日本文学』40(2):79-84.
- 1985年3月 「さまざまな現在(文学の鉅脈)」共著(共著者:山崎岩男/津留由人)『新日本文学』40(3):81-84.
- 1985年4月 「ラファエル前派にとって「宿命の女」とは何か」『工芸学会通信』35:1-2.
- 1985年5月 「排除される人たち——労働者の敗退と退廃(文学の鉅脈)」共著(共著者:山崎岩男/津留由人)『新日本文学』40(5):83-87.
- 1985年6月 「内なる分断を超えて——民衆的視点の発見(文学の鉅脈)」共著(共著者:山崎岩男/津留由人)『新日本文学』40(6):114-119.
- 1985年9月 「芸術・教育・運動——共に学びあう関係をこそ(文学の鉅脈)」共著(共著者:山崎岩男/津留由人)『新日本文学』40(9):85-89.
- 1985年12月 「闘わなきゃ面白くない——資本による洗脳と労働者の抵抗(文学の鉅脈)」共著(共著者:山崎岩男/津留由人)『新日本文学』40(12):84-87.
- 1986年10月 「小野二郎とウィリアム・モリス」『クリティーク』(青弓社)5:140-148.
- 1990年3月 「訳者解説」フィリップ・ヘンダースン著『ウィリアム・モリス伝』(晶文社)、580-608頁。
- 1991年5月 「モリスの肖像」『モリス祭りへの招待』(けやき美術館)、4-5頁。
- 1995年2月 「解説——ロマンスの精神」ウィリアム・モリス著『サンダリング・フラッド』(中桐雅夫訳、平凡社)、401-409頁。
- 1995年6月 「「農民芸術概論綱要」のために——ラスキン・モリス・賢治の系譜」『賢治の学校』(晩成書房)1:48-54.
- 1995年8月 「解説——「オーウェル風」のくらしむき」ジョージ・オーウェル著『ライオンと一角獣——オーウェル評論集』(川端康雄編、平凡社)313-324頁。
- 1998年8月 「翼ある言葉をかけて——ホメロスの『オデュッセイア』」『幼児の教育』97(8):34-39.
- 2000年1月 「ファンタジー作家としてのウィリアム・モリス」モリス『世界の

- はての泉』（晶文社）訳者解説、下巻、349–363頁。
- 2000年3月 「物語作者の最後の冒険——ウィリアム・モリス・コレクションに寄せて」『出版ダイジェスト』2000年3月1日号、1–2。
- 2000年7月 「私の都市・建築論」『日刊建設工業新聞』2000年7月3日号、18頁。
- 2001年3月 「ロバート・コーミアの最初の死のあとで」『デジタル月刊百科』3月号（日立システムアンドサービス）
- 2001年11月 「ディストピアの言語学」『週刊朝日百科』「ユートピアと反ユートピア」（朝日新聞社）79: 36–39。
- 2002年2月 「イギリス文化研究の端緒を開いて」『小野二郎セレクション—イギリス民衆文化のイコノロジー』（川端康雄編、平凡社）、編者解説、295–301頁。
- 2002年6月 「博言学者シュピッツァーの英米文学論集」『英語青年』148(3): 182–183。
- 2003年3月 「ユートピアンとディストピアン」『Symposium』（日本女子大学英語英文学会誌）46: 64–65。
- 2003年6月 「訳者解説 未だない〈どこにもない場所〉からのしらせ」ウィリアム・モリス『ユートピアだより』（川端康雄訳、晶文社）353–379頁。
- 2003年9月 「ヴェネツィアの石の重み——解題『ヴェネツィアの石』」『ラスキン文庫たより』45: 1–5。
- 2004年9月 「継続者・先覚者——木村正身先生の思い出」『ラスキン文庫たより』47: 14–15。
- 2005年3月 「ロマンティック・エコロジストとしてのウィリアム・モリス」『シンポジウムを終えて』『ラスキン文庫たより』48: 6–9。
- 2006年3月 「21世紀のモリス」『ラスキン文庫たより』50: 19。
- 2006年3月 「Always be ready to speak your mind, and a base man will avoid you.」『Symposium』（日本女子大学英語英文学会誌）49: 58–59。
- 2008年1月 「毀誉褒貶の思想家——ジョン・ラスキンが遺したもの」『広島日英協会々報』77: 5–7。
- 2008年8月 「平野敬一先生の教え」『英語展望』116: 46–47。
- 2008年3月 「井出祥子教授への謝辞」『Symposium』（日本女子大学英語英文学会誌）51: 3–4。
- 2009年3月 「ヴェネツィアのラスキン学会」『ラスキン文庫たより』56: 1–4。
- 2009年7月 「ディストピアのおとぎばなし」ジョージ・オーウェル著『動物農

- 場』（岩波書店）、231–254.
- 2009年9月 「解題・小野二郎著「ラスキンとウェスカー」『ラスキン文庫たより』57: 20.
- 2009年10月 「読むことと批評——創刊にあたって」『レイモンド・ウィリアムズ研究』1: 1–2.
- 2009年12月 「バーンヒルまで」『月刊百科』（平凡社）566: 6–7.
- 2010年7月 「あるサッカー選手の生涯」『月刊百科』（平凡社）573: 6–7.
- 2011年6月 「『ケルムスコット・チャーサー』（ケルムスコット・プレス版『チャーサー作品集』）について」『日本女子大学図書館だより』138: 2–3.
- 2012年2月 「解説——小野二郎の批評的モリス紀行」小野二郎著『ウィリアム・モリス通信』（川端康雄編、みすず書房）、237–249頁。
- 2012年7月 “Foreword,” *Raymond Williams Kenkyu*, Special Issue, p. 5.
- 2012年8月 「展覧会へようこそ 218: バーン=ジョーンズ展——装飾と象徴（インタビュー構成）『クロワッサン』36（15）: 111.
- 2012年9月 「オーウェルと『動物農場』」人形劇団クラルテ第108回公演『新・動物農場』パンフレット、6頁。
- 2012年12月 「オーウェルの動物寓話」アニメーション映画『動物農場』（ハラス & パチュラー作、三鷹の森ジブリ美術館提供）パンフレット
- 2012年10月 「『ゴシックの本質』を訳して」『ラスキン文庫たより』63: 13–15.
- 2013年4月 「ウェスカーの「田舎と都会」」地人会新社第2回公演『根っこ』パンフレット、8–9.
- 2013年10月 “Ginza and the Tokyo Rusukin Kyōkai (Ruskin Society).” Laura Ricca, ed., *The Arts and Crafts of the City* (Publication of the Laboratory for Research on the City, Institute for Advanced Studies, University of Bologna), pp. 69–74.
- 2014年1月 「遅れて来た者として」『ラスキン文庫たより』66: 9.
- 2014年7月 「スポーツ精神」『en-taxi』（扶桑社）4: 108–109.
- 2014年3月 「山田雄三著『ニューレフトと呼ばれたモダニストたち』を読む——報告1」『レイモンド・ウィリアムズ研究』4: 57–68.
- 2014年10月 「三浦さんの助言」『レイモンド・ウィリアムズ研究』5: 141–144.
- 2015年1月 「装飾デザイナーの世直し論——ウィリアム・モリス、E・B・バックス『社会主義——その成長と帰結』をめぐって」『広島日英協会会報』156: 2–5.

- 2015年3月 「ラスキンとアランデル協会——ジョットの複製版画をめぐって」『地中海学会月報』378: 7.
- 2016年3月 「転機の旅——ラスキンのイタリア旅行（一八七四年）をめぐって」『ラスキン文庫たより』71: 6–7.
- 2016年3月 「「開かれた問い」を投げる——*Loyalties*を読む」『レイモンド・ウィリアムズ研究』6: 51–63.
- 2016年5月 「「真なるものはつくられたもの」」『日本ヴィクトリア朝文化研究学会 Newsletter』15: 1–3. <http://www.vssj.jp/newsletter/nl-15.pdf>.
- 2016年6月 「バーン＝ジョーンズ展」『三菱一号館美術館 研究紀要』2: 84–85.
- 2017年3月 「キース・ハンリー教授講演「ジョン・ラスキンと文化観光」をめぐって」『ラスキン文庫たより』73: 8.
- 2017年3月 「レイモンド・ウィリアムズ翻訳始末記」『レイモンド・ウィリアムズ研究』7: 41–52.
- 2019年11月 「ウィリアム・モリスの散文ロマンスとケルムスコット・プレス刊本」『日本女子大学図書館だより』166: 4–5.
- 2020年3月 「ケルムスコット・プレスと中世文学」『日本女子大学図書館だより』167: 4–5.
- 2020年4月 「新型コロナ時代に、ジョージ・オーウェルが再び注目される理由——「ディストピアの言語」とは何か」『現代ビジネス』（オンライン）<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/72066>.
- 2020年8月 「ケルムスコット・プレス刊本の詩集」『日本女子大学図書館だより』168: 4–5.
- 2020年10月 「エッセー——『赤い闇』のオーウェル」『文學界』74(10): 118–119.
- 2020年10月 「「コロナ以前」の旅——二〇一九年、テムズ川遡行とヴェネツィアのラスキン学会」『ラスキン文庫たより』80: 3–5.
- 2021年3月 「壽岳文章とウィリアム・モリス」『向日庵』4: 56–60.
- 2021年5月 「オーウェルとヴィクトリア朝的なもの」『日本ヴィクトリア朝文化研究学会 Newsletter』20: 1–4.
- 2021年6月 「アーツ・アンド・クラフツ展とケルムスコット・プレス版『ゴシック建築』」『日本女子大学図書館だより』171: 4–5.
- 2021年11月 「ケルムスコット・プレスの16折判」『日本女子大学図書館だより』172: 4–5.
- 2022年3月 「ケルムスコット・プレス版『フロワサル年代記』の見本刷り2

- 種』『日本女子大学図書館だより』173: 4-5.
- 2022年3月 「壽岳文章の抵抗——『滴る雫』の柔軟心」『向日庵』5: 8-14.
- 2022年6月 「ケルムスコット・プレス版『ユートピアだより』」『日本女子大学図書館だより』174: 4-5.
- 2022年11月 「そぞろ歩き「オーウェル風」——訳者解説2」レベッカ・ソルニット著『オーウェルの薔薇』岩波書店、337-344頁。
- 2022年11月 「ケルムスコット・プレス版『ジョン・ボールの夢』」『日本女子大学図書館だより』175: 4-5.
- 2022年12月 「今こそ読みたい“ディストピア小説”の名作 ジョージ・オーウェル『一九八四年』」『CNN English Express』2023年1月号、47-60.
- 2023年3月 「ケルムスコット・プレス版『聖処女マリア讃歌』」『日本女子大学図書館だより』175: 4-5.
- 2023年3月 「日本における最近のラスキン研究の動向」『ラスキン文庫たより』85: 12. (刊行予定)
- 2023年3月 「壽岳文章のウィリアム・コベット小伝をめぐる」『向日庵』第6号. (刊行予定)

書評

- 1982年2月 「「神祕は目に見えるものの中にある」——小野二郎『装飾芸術』」『ポイエーシス』5 (ポイエーシス同人会) 5: 40-44.
- 1988年1月 「真実に向かう冒険譚——ギュンター・ヴァルラフ『最底辺』」『新日本文学』478: 182-185.
- 1991年9月 「ウィリアム・モリスの活字の冒険の歴史——William S. Peterson, *The Kelmscott Press: A History of William Morris's Typographical Adventure*」『英語青年』137 (6) : 308-309.
- 1993年6月 「高宮利行著『西洋書物学事始め』」『英語青年』139 (3) : 146-147.
- 1996年3月 「小野二郎著『ウィリアム・モリス研究』」『書物の宇宙』『ユートピアの構想』」『ラスキン文庫たより』30: 13.
- 1996年10月 「藤田治彦『ウィリアム・モリス〔近代デザインの原点〕』」『産経新聞』、1996年10月24日号朝刊
- 1999年4月 「オーウェル全集の完結」『英語青年』145 (1) : 42-43.
- 1999年9月 「歴史を書くこと・歴史をつくること——エドモンド・ウィルソン『フィンランド駅へ』」『デジタル月刊百科』1999年9月号 (日立

- デジタル平凡社)
- 2000年1月 「古典詩歌の樹林を巡る、気韻あふれるエッセイ——沓掛良彦著『詩林逍遙——枯骨閑人東西詩話』、『デジタル月刊百科』2000年1月号(日立デジタル平凡社)
- 2003年3月 「天野知香著『装飾／芸術——19～20世紀のフランスにおける「芸術」の位相』、『ラスキン文庫たより』44: 17-18.
- 2004年7月 「新刊書架 奥山康治編 *Orwell: A Centenary Tribute from Japan*』、『英語青年』150(4): 245-246.
- 2007年3月 「Robert Hewison, ed. *“There Is No Wealth but Life”: Ruskin in the 21st Century*』、『ラスキン文庫たより』52: 12.
- 2007年4月 「21世紀の洋書棚 文化史の過去・現在・未来——Peter Burke, *What is Cultural History?*』、『英語青年』153(1): 30-32.
- 2007年10月 「21世紀の洋書棚 イギリスに「知識人」は存在したか——Stefan Collini, *Absent Minds: Intellectuals in Britain*』、『英語青年』153(7): 415-417.
- 2007年11月 「小関隆著『プリムローズ・リーグの時代——世紀転換期イギリスの保守主義』、『ヴィクトリア朝文化研究』5: 84-87.
- 2010年3月 「*John Ruskin's Romantic Tours, 1837-1838: Travelling North* by Keith Hanley, and *Journeys of a Lifetime: Ruskin's Continental Tours*』、『ラスキン文庫たより』58: 25.
- 2010年11月 「Rachel Teukolsky, *The Literate Eye: Victorian Art Writing and Modernist Aesthetics*』、『ヴィクトリア朝文化研究』8: 58-62.
- 2012年3月 「*The Kelmscott Chaucer: a census* について』、『日本女子大学図書館だより』143: 4.
- 2012年11月 「Fiona MacCarthy, *The Last Pre-Raphaelite: Edward Burne-Jones and the Victorian Imagination*』、『ヴィクトリア朝文化研究』10: 85-90.
- 2014年9月 「伊藤航多・佐藤蘭香・菅靖子編著『欲ばりな女たち: 近現代イギリス女性史論集』、『西洋史学』(日本西洋史学会編) 252: 305-308.
- 2015年3月 「マイケル・バリー著、藤田治彦監訳『モリス商会 装飾における革命』(東京美術、2012年)』、『ラスキン文庫たより』69: 15.
- 2015年9月 「モリス的ユートピアの諸変奏」(Fiona MacCarthy, *Anarchy & Beauty: William Morris and His Legacy, 1860-1960*) 『ラスキン文庫たより』70: 8-9.
- 2015年11月 「Yoshiko Seki, *The Rhetoric of Retelling Old Romances: Medievalist*

-
- Poetry by Alfred Tennyson and William Morris (Tokyo: Eichosha, 2015)』『ヴィクトリア朝文化研究』13: 183–188.
- 2016年7月 「稀代の工匠の全体像描く——蛭川久康著『評伝ウィリアム・モリス』」『産経新聞』2016年7月24日。
- 2018年5月 「詩人モリス出世作の全訳——ウィリアム・モリス著、森松健介訳『地上の楽園 春から夏へ』『地上の楽園 秋から冬へ』」『中央評論』303: 236–241.
- 2020年12月 横山千晶『ジョン・ラスキンの労働者教育——「見る力」の美学』『英文学研究』97: 42–46.
- 2021年4月 「新訳『1984』を読む」『研究社ノート』<https://note.com/kenkyusha/n/n0b78435f0e71>.
- 2021年10月 「*Louisa Waterford and John Ruskin: “For You Have Not Falsely Praised”* by Caroline Ings-Chambers, Routledge, 2020)」『ラスキン文庫たより』82: 12.
- 2021年11月 「六人の画家たちの主要作品を濃厚に論じる——論考をじっくりと読むのもひとつの愉悅 山口恵里子編『エロスとタナトス、あるいは愉悅と戦慄』」『図書新聞』3519: 4.
- 2022年8月 ロバート・リーチ著、岩田託子訳『「パンチ&ジュディ」のイギリス文化史』『西洋史学』273: 56–58.
- 2023年3月 「今橋映子著『近代日本の美術思想——美術批評家・岩村透とその時代』(白水社、2021年)」『比較文学』65: 56–61.
- その他
- 1986年7月 「小野二郎年譜」『小野二郎著作集3 ユートピアの構想』(晶文社) 467–478頁。
- 1990年3月 「ウィリアム・モリス年譜」フィリップ・ヘンダースン著『ウィリアム・モリス伝』(晶文社)、609–630頁。
- 1992年11月 資料1992年11月、「ケルムスコット・プレス刊本リスト・解題」ウィリアム・モリス著『理想の書物』晶文社、xxii–xlix頁。
- 1997年2月 事典項目執筆『マイクロソフトエンカルタ97エンサイクロペディアマルチメディア百科事典』(執筆項目:「イソップ」「叙事詩」「ホメロス」「イソクラテス」「抒情詩」)CD-ROM版。
- 1999年12月 追悼文「言葉・言葉・言葉」(追悼・安西迪夫教授)『社会情報論叢』(十文字学園女子大学)3: 119–121頁。
- 2006年12月 アンケート「リレー連載、英語・英文学・英語学教育を考える⑧
-

- 授業で活用するこの映画」『英語青年』152(9):537.
- 2007年11月 「鼎談 文化史研究と文学研究の接点をめぐって」(特集 文学系文化論の可能性) 富山太佳夫/見市雅俊/川端康雄、『英語青年』153(8):458-467.
- 2008年3月 「献辞」(井出祥子教授記念論文集)『日本女子大学英米文学研究』43: i-iii.
- 2008年11月 「リレー連載: レイモンド: ウィリアムズとの出会い——まえがき」『英語青年』154(8):49-57.
- 2008年12月 「オーウェルの動物寓話」アニメーション映画『動物農場』(ハラス&パチュラー作、三鷹の森ジブリ美術館提供)パンフレット。
- 2009年2月 「リレー連載: レイモンド・ウィリアムズとの出会い」第4回「討議」司会: 川端康雄、討論者: 遠藤不比人/大貫隆史/河野真太郎/鈴木英明、『英語青年』154(11):49-57.
- 2011年3月 「関曠野インタビュー——社会信用論、ベーシック・インカム、そして批評」聞き手: 川端康雄、大貫隆史、遠藤不比人、河野真太郎、鈴木英明(2010年4月24日、豊橋にて)、『レイモンド・ウィリアムズ研究』2: 1-54.
- 2011年7月 資料「資料紹介 成瀬仁蔵インタビュー——『ニューヨークタイムズ』1912年11月10日」『成瀬記念館』26: 52-72. まえがき、インタビュー記事の翻刻、翻訳(共訳者: 佐久間妙美)
- 2012年11月 書籍紹介「川端康雄・加藤明子著『もっと知りたいバーンズ——生涯と作品』」『日本女子大学図書館だより』145: 4.
- 2014年9月 「編集後記」『日本女子大学英米文学研究』49: 243.
- 2019年4月 年譜「小野二郎年譜」『ある編集者のユートピア——小野二郎: ウィリアム・モリス、晶文社、高山建築学校』(世田谷美術館)180-191頁。
- 2019年6月 紹介「泉会寄贈による「ケルムスコット・プレス全刊本53点」について」『日本女子大学図書館だより』165: 4-5.
- 2019年9月 編・解説「ウィリアム・モリスの芸術と社会主義運動、同時代パンフレット復刻集成」全3巻、Eureka Press、別冊解説「ウィリアム・モリスの芸術と社会主義運動——同時代パンフレット復刻集成」
- 2019年12月 紹介「心に残る1冊 vol. 78——『完訳 カンタベリー物語』ジェフリー・チョーサー著、榊井迪夫訳、岩波文庫『桜楓新報』12月号。

-
- 2021年1月 紹介「『ふつうの人びと』への信と希望——新書版による初のオーウェル伝」(『ジョージ・オーウェル——「人間らしさ」への讃歌』『週刊読書人』2021年1月1日号、3371: 3.)
- 2020年3月 紹介「著作紹介 川端康雄著『ジョージ・オーウェル——「人間らしさ」への讃歌』『日本女子大学図書館だより』170: 3.
- 2022年7月 対談「『一九八四年』は「古典」か——神話化されたオーウェル像から離れ、そのエクリチュールを読み解く」(秦邦生氏との対談)『図書新聞』3553: 1 and 8.
- 2022年12月 対談「レベッカ・ソルニット『オーウェルの薔薇』をめぐる」(ハーン小路恭子専修大学准教授との対談)『群像』77(12): 192–205.

招待講演・公開討論等

- 1996年6月8日 招待講演「『ゴシックの本質』とレッサー・アーツの思想」1996年度ラスキン連続研究講座第3回、ラスキン文庫(於国立教育会館)
- 1997年5月20日 招待講演「ウィリアム・モリスの仕事」板橋区教育委員会・NHK共催(於板橋区文化会館)
- 1997年5月27日 招待講演「ウィリアム・モリスの仕事」杉並区教育委員会・NHK共催(於杉並セシオン)
- 1997年7月5日 招待講演「ウィリアム・モリスの生き方」近代美術館・NHK共催(於近代美術館)
- 1999年7月18日 「『記憶のかたち—コメモレイションの文化史—』合評会」「歴史と人間」研究会第74回(於一橋大学国立キャンパス)、コメンテーター: 草光俊雄/中嶋久人/川端康雄
- 2001年11月17日 招待講演「ラスキン・イタリア・バーン=ジョーンズ」ラスキン研究講座(於ラスキン文庫)
- 2003年5月24日 招待講演「『ヴェネツィアの石』を読んで——ラスキンの思想を語る」2003年度ラスキン連続研究講座第1回(トモノホール)
- 2004年12月12日 「書評会: 森村敏己・山根徹也編『集いのかたち: 歴史における人間関係』柏書房2004年」「歴史と人間」研究会第131回(於一橋大学国立キャンパス)、コメンテーター: 弓削尚子/川端康雄/高澤紀恵
- 2010年1月12日 招待講演「ディストピアのおとぎばなし——オーウェル『動
-

- 物農場』をめぐって」和洋女子大学英文学会（於和洋女子大学）
- 2012年2月25日 招待講演『『ゴシックの本質』を訳して』東京ラスキン協会、ラスキン・ティーパーティー（於銀座ミキモト本店）
- 2014年9月19日 日本デザイン協会（JDA）・日本建築家協会（JIA）デザイン部会共催公開トークイベント「ウィリアム・モリスと現代——あの時代が今に置き換えて教えるもの」司会、ディスカッサント：大倉富美雄日本デザイン協会理事長（日本建築家協会（JIA）建築家クラブ）
- 2015年11月22日 招待講演『『希望の巡礼』——ウィリアム・モリスの1880年代』日本ヴィクトリア朝文化研究学会第15回大会（於同志社大学今出川キャンパス）、司会：井野瀬久美恵
- 2016年11月6日 招待講演「ジョージ・オーウェルのディストピアン・フィクション」大東文化大学大学院文学研究科英文学専攻第11回英文学シンポジウム
- 2017年5月13日 招待講演「ラスキン、グリーンナウェイ、W・H・フーパーの協働——『リーのウィギンズおばさんと七匹の猫のゆかいなおはなし復刻版』（1885年）の制作をめぐって」日本イギリス児童文学会2017年度東日本支部春の例会（於法政大学市ヶ谷キャンパス）
- 2018年9月15日 招待講演「生活のレッサー・アーツ——ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」川村英文学会 第25回大会（於川村学園女子大学目白キャンパス）
- 2019年3月16日 招待講演「小野二郎のウィリアム・モリス研究」日本比較文学会東京支部2019年3月例会（於早稲田大学戸山キャンパス）、司会：庄子ひとみ
- 2019年5月18日 招待講演「ウィリアム・モリスと小野二郎」（於世田谷美術館）、司会：矢野進
- 2019年7月13日 招待講演「『歴史の小さなひとかたまり（a little chunk of history）』をめぐって——『一九八四年』再読』日本オーウェル協会例会（於早稲田大学国際会議場）、司会：佐藤義夫
- 2022年7月15日 公開討論『『オーウェル『一九八四年』——ディストピアを生き抜くために』（慶應義塾大学出版会）刊行記念、著者・川端康雄さん×ゲスト・小川公代さん オンライントークイベント』紀伊國屋書店新宿店、Zoomにて配信

-
- 2023年1月28日 公開討論「レベッカ・ソルニット『オーウェルの薔薇』をめぐって」訳者：川端康雄／ハーン小路恭子、司会：河野真太郎。Kunilabo (国立人文学研究所) Zoomにて配信
- 2023年3月17日 最終講義「ウィリアム・モリス、ジョージ・オーウェル、小野二郎——ある系譜」(於日本女子大学新泉山館大会議室)(予定)
- 2023年3月25日 招待講演「ラスキンのユモレスク——自伝『プラエテリタ』の滑稽味について」東京ラスキン協会、ラスキン・ティーパーティ(於日本外国人記者クラブ)(予定)

公開講座・メディア出演ほか

- 2000年7月24～27日 早稲田大学オープン・カレッジ公開講座「マザー・グースの世界」
- 2001年7月17日～8月7日 早稲田大学オープン・カレッジ公開講座「マザー・グースの世界」
- 2004年8月27日～9月8日 「歴史移動教室 英国デザインの源流を求めて」(同行講師)朝日カルチャーセンター新宿教室／朝日サンツアーズ
- 2005年3月1日 日本女子大学生涯学習センター公開講座「ヴィクトリア朝の絵本作家たち」
- 2008年2月12日 文教アカデミー公開講座「ジョージ・オーウェル『動物農場』を読む」
- 2008年3月11日、3月18日 日本女子大学生涯学習総合センター公開講座「ラファエル前派の世界」
- 2011年11月6日 日本女子大学生涯学習センター公開講座「ケルムスコット・チョーサー——ウィリアム・モリスの活字の冒険」
- 2012年6月16日 日本女子大学生涯学習センター公開講座「バーン＝ジョーンズの芸術——最後のラファエル前派」
- 2016年5月23日 日本女子大学生涯学習センター公開講座「W・J・ウォーターハウスの世界」
- 2017年5月17日 「人間邂逅——文系の人 英文学者・日本女子大学教授 川端康雄 × 御木本製薬社長 岡本暉公彦」『プレジデント』2017年5月17日号、55(11):10.
- 2017年10月16日 「いまなぜオーウェルを読むのか——「ポスト真実」の時代」朝日カルチャーセンター湘南教室公開講座
-

-
- 2017年10月23日 「三菱ダイヤモンドサッカー 放送開始50年記念トークイベント「サッカーを愛する皆さん、ご機嫌いかがでしょうか」日本サッカーミュージアム（登壇者：大仁邦彌／金子勝彦／二宮寛／川端康雄 司会：久保田光彦）
- 2017年10月30日～2018年3月19日 「オーウェル『動物農場』を読み解く——ディストピアのおとぎばなし」朝日カルチャーセンター湘南教室公開講座（計9回）
- 2019年4月27日 「ラスキンとモリス——芸術思想の継承と発展」朝日カルチャーセンター湘南教室公開講座
- 2019年6月30日 「自然への冠——ウィリアム・モリスと英国デザインの源流」朝日カルチャーセンター湘南教室公開講座
- 2020年10月23日 TBS ラジオ「荻上チキのSession」出演。「元ドイツ兵がイギリスの国民的サッカー選手に！映画『キーパー ある兵士の奇跡』が描く戦争と和解とは？」解説。
- 2020年11月 インタビュー「学術会議政治介入」『京都市報』2020年11月29日号3面
- 2021年3月13日 「オーウェル『一九八四年』と希望のかけら」朝日カルチャーセンター新宿教室公開講座
- 2021年4月12日～2022年3月24日 「英語で読むオーウェル『一九八四年』」朝日カルチャーセンター新宿教室公開講座（計24回）
- 2022年6月 インタビュー「(著者に会いたい)『オーウェル「一九八四年」ディストピアを生き抜くために』」『朝日新聞』2022年6月24日朝刊書評欄（文・石田祐樹）
- 2022年10月1日 「ジョージ・オーウェル『一九八四年』の世界 第1回 小説世界の「近接性」と「異質性」——「愛」と「黄金郷」朝日カルチャーセンター新宿教室公開講座
- 2022年12月24日 「ジョージ・オーウェル『一九八四年』の世界 第2回 「ニュースピーク」と「ディストピアの言葉づかい」朝日カルチャーセンター新宿教室公開講座
- 2023年2月11日 「ジョージ・オーウェル『一九八四年』の世界 第3回 「歴史のひとかけら」と「人間らしさ」への希望」朝日カルチャーセンター新宿教室公開講座

公的研究費の獲得

2000年度～2001年度：科学研究費補助金基盤研究(C)「現代英文学におけるディ

- ストビアの表象とその批評機能をめぐって」研究代表者：川端康雄、研究機関：十文字学園女子大学
- 2003年度～2004年度：科学研究費補助金基盤研究(C)「ウィリアム・モリスの韻文ロマンスとその文学的意義に関する研究」研究代表者：川端康雄、研究機関：日本女子大学
- 2004年度～2006年度：(研究分担者)科学研究費補助金基盤研究(B)「近代工芸運動の総合的国際比較研究」研究代表者：藤田治彦、研究分担者：鶴岡真弓、川端康雄、高木陽子、井口壽乃、池田祐子、永田靖、塚田耕一、天貝義教、研究機関：大阪大学
- 2005年度～2007年度：科学研究費補助金基盤研究(C)「ジョン・ラスキンとウィリアム・モリスによるエコクリティシズムへの貢献に関する研究」研究代表者：川端康雄、研究期間：研究機関：日本女子大学
- 2010年度～2012年度：科学研究費補助金基盤研究(B)「構造主義の残滓としての英国批評の国際的再検討——ラスキンからウィリアムズまで」研究代表者：川端康雄、研究分担者：遠藤不比人、河野真太郎、大貫隆史、鈴木英明、研究機関：日本女子大学
- 2010年度～2012年度：(研究分担者)科学研究費補助金基盤研究(A)「アーツ・アンド・クラフツと民藝——ウィリアム・モリスと柳宗悦を中心とした比較研究」研究代表者：藤田治彦、研究分担者：川端康雄、横山千晶、川島智生、吉村典子、鈴木禎宏、橋本順光、濱田琢司、中見真理、藪亨、研究機関：大阪大学
- 2013年度～2016年度：科学研究費補助金基盤研究(A)「新しいカルチュラル・スタディーズの基礎理論構築——残滓としての英国批評を活用して」研究代表者：川端康雄、研究分担者：山田雄三、遠藤不比人、河野真太郎、大貫隆史、西亮太、鈴木英明、研究機関：日本女子大学
- 2015年度～2018年度：(研究分担者)科学研究費補助金基盤研究(B)「異文化交渉の動態と異相」研究代表者：大石和欣、研究分担者：田中裕介、山口恵里子、アルヴィなほ子、ディヴィッド・ヴァリンズ、川端康雄、研究機関：東京大学
- 2017年度～2020年度：科学研究費補助金基盤研究(A)「産業文学」の再定義とその国際共同研究——産業化と脱産業化のグローバルな経験」研究代表者：川端康雄、研究分担者：中井亜佐子、遠藤不比人、河野真太郎、大貫隆史、西亮太、越智博美、研究機関：日本女子大学
- 2022年度～2005年度(予定)：科学研究費補助金基盤研究(B)「ポスト・ブregジットから見る20世紀英国文化——大都市移住者文化としてのモダニズム」研究代表者：川端康雄、研究分担者：中井亜佐子、遠藤不比人、河野真太郎、大貫隆史、西亮太、越智博美、研究機関：日本女子大学